

第1学年 社会科学習指導案

指導者 袖山 文広

1 単元 貴族社会の発展

2 単元の目標

- 古代国家が発展し、国際色豊かな文化から日本独自の文化が生み出されていったことに対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- 都の貴族や地方の農民の暮らし、摂関政治と天平・国風文化の特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。 (社会的な思考・判断・表現)
- 都の貴族や地方の農民の暮らし、摂関政治と天平・国風文化の特色に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりすることができる。 (資料活用の技能)
- 天皇や貴族を中心とする政治が展開するなかで、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解し、その知識を身に付けることができる。 (社会的事象についての知識・理解)

3 学習指導の方針

本単元では、律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを通して、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展していったことや、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解することをねらいとしている。

実態アンケート調査

(第1学年*組 *人 *月*日実施)

社会科の授業でどのようなときに手を挙げることができますか。

- ① 前の授業の復習などで、語句を答える時。····· *人
- ② 絵や写真、グラフなどを見て分かることを答える時。····· *人
- ③ 学習したことから、自分の考えを答える時。····· *人
- ④ 友だちの考え方を聞いて、それに対する考え方を求められた時。····· *人

本学級の生徒は、学習の開始時刻の遵守、授業が終わったら次の時間の準備をする、鉛筆を使うなど学習の約束を良く守ることができ、家庭学習ノートの提出率も100パーセント近い。さらに、授業中挙手をして発表をしようとする意欲も見られる一方、実態調査のアンケートのように、自分の考えを表現することが苦手であることが分かる。

そこで、本単元では、奈良時代の律令国家での人々の暮らしを、農民、貴族など立場や、経済、外交などの側面から考察して、友だちと意見交換するなど、学習の課題や視点、授業展開を工夫することによって、生徒の歴史的事象を多面的・多角的に考察したり、表現したりする力を高めたいと考える。

さらに、本校の研究であるピアソーターの活用につながるよう、グループ学習における社会科リーダーを取り入れ、生徒同士の学び合いから学習が深まるようにしたい。

4 学習計画及び指導の方針（5時間扱い）

時	学習内容	評価規準	学習形態	評価の観点			
				関	思	技	知
1	平城京がつくられ、国際色豊かな文化が、都の貴族を中心に栄えたことを理解する。	平城京について資料をもとに調べ、天皇・貴族の権力の大きさや、中国の影響を読み取り整理することができる。	一斉 グループ	○		◎	
2	貴族の豊かな暮らしは、集められる税によって支えられていた一方で、地方の農民にとっては、税や労役・兵役が重い負担となっていたことを理解する。	奈良時代の貴族や農民暮らしについて意欲的に調べ、貴族の豊かな暮らしを、農民が支えていたことに気付くことができる。	一斉 グループ	○	◎		
③ 本時	奈良時代の人々の立場となって、律令国家についての意見を考える。	貴族、または農民の立場となり、律令国家についての自分の意見を、経済面、労働面、外交面から考えることができる。	一斉 グループ	◎	○		
4	藤原氏が繁栄した背景・理由について、律令制や地方政治の変化、摂関政治との関わりから考える。	摂関政治に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図や表にまとめることができる。	一斉 グループ	○	◎		
5	平安時代に文化の国風化が進んだ背景やその特色について、大陸との関係や、かな文字の発達などから理解する。	文化の国風化が進んだことを理解し、その知識を身に付けることができる。	一斉 グループ	○		◎	

5 本時の学習

(1) 目標

律令国家を多面的・多角的に考察し自分の意見を考えることができる。

(2) 評価規準と指導の手立て

評価規準	十分満足できる状況	努力を要する生徒への手立て
貴族、または農民の立場となり、律令国家についての意見を、経済面、労働面、外交面から、考えることができる。 (社会的な思考・判断・表現)	友だちの意見と対立する自分の意見や、共感したことを付け加えた自分の意見などを進んで述べることができる。	写真の資料を提示し、当時の貴族や農民の気持ちを考えることができるよう支援する。

(3) 準備・資料

奈良時代の農民や貴族の暮らしの写真 東アジアの勢力図

(4) 展開

学習内容及び活動	指導上の留意点（・）と評価の視点（（評））
1 本時の学習内容を知る。 奈良時代の律令国家に意見を述べよう。 ～私が貴族、農民、そして役人だったなら～	・前時までに調べた奈良時代の人々の暮らしや国際関係を基に、律令国家への意見を考えることを理解させる。
2 貵族、農民それぞれの立場で意見を考え、発表する。 ○ 予想される貴族の立場の意見 経済面 おいしい物を食べ、豪華な家に住めてうれしい。 労働面 税が免除で楽。 外交面 国を守るために、兵役は必要。 ○ 予想される農民の立場の意見 経済面 貧しい衣食住を何とかして欲しい。 労働面 税が重くて働くのが大変。 家族を置いて兵役はきつい。 外交面 新羅や蝦夷と仲良くして欲しい。	・「律令国家はどうじや。意見を述べよ?」「求められたら何と答える?」と具体的な会話での発問をし、それぞれの立場になって考えられるようにする。 ・それぞれの立場について、経済面、労働面、外交面という3つの視点を示し、多面的・多角的に考察できるようにする。 （評）自分の立場について、3つの視点から意見を考えている。 (ノートの記述)
3 自分が律令国家の役人なら、貴族と農民の意見に対してどのように答えるか考え発表する。 ○ 予想される役人の立場の意見 貴族が良い生活ができるのは、私たち役人や農民が一生懸命働いているからです。 少しでも困っている人を助けるようにして欲しい。 農民は、生活が苦しいのは分かりますが、律令制度で国を安定させようとしているので、がまんして下さい。兵役や税の負担が少なくなるようにぼくたち役人もがんばります。	・学習形態を、個人、グループ、一斉と広め、意見交換する中で、考えを広げたり深めたりすることができるようする。 ・考えに対する丸つけ、発表した意見への賞賛を行うことにより歴史的事象に対して、思考・判断・表現することの楽しさを感じることができるようする。 （評）律令国家の役人の立場から、貴族と農民の意見にどのように答えるか考えている。 (ノートの記述・発表)
4 本時のまとめをし、次時の学習内容を知る。 律令政治や貴族の力はどのように変化していくのだろう。	・3の学習を振り返りながら、実際には律令政治や貴族の力かどのようになっていったか次時に学習することを伝え、関心や意欲を高める。 ・本時の学習内容についての課題を出し、知識・理解の定着を図る。